衆議院ポーランド及び英国における
安全保障政策等調査議員団報告書

令和７年１２月

令和７年 １２月

衆議院議長　　額　賀　福志郎 殿

衆議院ポーランド及び英国における
安 全 保 障 政 策 等 調 査 議 員 団

団長　　遠　藤　　敬

本議員団は、ポーランド及び英国における安全保障政策等の実情調査のため、令和７年８月 30 日から９月５日までの７日間、ポーランド及び英国を訪問いたしましたので、その概要を御報告いたします。

目　次

頁

１　訪問議員団
（１）団名・・・

1　訪問議員団

１　訪問議員団

（１）団名

衆議院ポーランド及び英国における安全保障政策等調査議員団

（２）目的

ポーランド及び英国における安全保障政策等の実情調査のため

（３）派遣議員団

団長	安全保障委員会	委員長	遠　藤	敬（維新）
	安全保障委員会	理　事	篠　原	豪（立憲）

同行	委員部第四課課長補佐	伊　藤　義　人
	防衛省大臣官房国会対策統括調整官	白　田　浩　一
	外務省総合外交政策局	
	安全保障政策課課長補佐	垣　内　翔　太

（４）派遣期間

令和７年８月３０日（土）から９月５日（金）までの７日間

（５）派遣国

ポーランド、英国

（６）主な調査内容

① ポーランド

ⅰ ポーランド国防省を訪問し、レヒ・ドラブ軍外務局局長から、ポーランドの安全保障政策の現状等について説明を聴取し、意見交換を行った。

ⅱ ポーランド下院国防委員会を訪問し、アンジェイ・シェウィンスキ副委員長と、日本とポーランドの対ロシア政策の状況、議員間交流の更なる促進等について、意見交換を行った。

ⅲ アウシュビッツ・ビルケナウ博物館を訪問し、強制収容所の跡地を視察しつつ、ガイドから当時の状況について説明を受けた。

② 英国

ⅰ 英国下院国防委員会を訪問し、タン・デシ―委員長と、日英伊三か国による次期戦闘機の共同開発に係る「グローバル戦闘航空プログラム（GCAP)」（以下「GCAP」という。）の重要性の再確認と更なる連携強化に向けた取組、ロシアのウクライナ侵略への対応及びインド太平洋地域の安定に向けた日英協力の在り方等について、意見交換を行った。

ⅱ 英国の防衛産業 BAE システムズ社のウォートン工場を訪問し、同社の業務概要、GCAP の進捗状況等について説明を聴取した後、工場内の視察を行った。

ⅲ 英国国防省を訪問し、バーノン・コーカー閣外大臣と、インド太平洋地域の安定に向けた日英協力の在り方、今後の中国との向き合い方等について、意見交換を行った。

ⅳ GCAP を一元的に管理・運営する国際機関である GIGO（GCAP 政府間機関）本部を訪問し、関係者から組織の運営状況、GCAP の進捗状況等について説明を聴取した後、意見交換を行った。

（７）主な日程

令和７年

８月３０日（土）

７：５０　東京（羽田）発

１５：１０　ヘルシンキ着

１７：１０　ヘルシンキ発

１８：１０　クラクフ着

【クラクフ泊】

８月３１日（日）

９：３０　アウシュビッツ・ビルケナウ博物館視察

１３：１５　ポーランド国民と意見交換

【クラクフ泊】

９月１日（月）

８：５０　クラクフ発

９：４０　ワルシャワ着

１１：００　無名戦士の墓献花

１１：３０　河野在ポーランド大使からの説明
１３：３０　ポーランド国防省レヒ・ドラブ軍外務局局長と意見交換
１５：３０　ポーランド下院国防委員会アンジェイ・シェウィンスキ副委員長と意見交換
１９：００　在留邦人と意見交換

【ワルシャワ泊】

9月2日（火）
８：５０　ワルシャワ発
１０：３５　ロンドン着
１２：３０　鈴木在英国大使からの説明
１５：３０　英国下院国防委員会タン・デシ―委員長と意見交換
１９：００　在留邦人と意見交換

【ロンドン泊】

9月3日（水）
１１：００　BAE システムズ社ウォートン工場視察

【ロンドン泊】

9月4日（木）
９：３０　英国国防省バーノン・コーカー閣外大臣と意見交換
１５：５０　GIGO 本部岡首席行政官と意見交換
１９：２０　ロンドン発

【機中泊】

9月5日（金）
１７：２０　東京（羽田）着

２　調査の概要

（※）本章の「視察先の概要」部分は、派遣時点によるものである

２　調査の概要

（１）ポーランド

① アウシュビッツ・ビルケナウ博物館の視察

・期　日　令和７年８月 31 日

・説明者　中谷剛アウシュビッツ・ビルケナウ博物館公式ガイド

・日本側　遠藤　　敬団長（維新）

　　篠原　　豪議員（立憲）

・視察先概要

　アウシュビッツ強制収容所は、第二次世界大戦初期の 1940 年にナチス・ドイツによってポーランド南部のオシフィエンチム市に建設された捕虜収容所である。当初はポーランド全土の収容所に収まりきらないポーランド人政治犯を収容する目的で建てられたが、1942 年になると、さらにユダヤ人、ロマ、ソ連軍捕虜等を中心としたヨーロッパ中から集められた諸民族の大量虐殺の場、「死の収容所」として機能するようになった。同収容所は、とりわけユダヤ人の殺害規模で最大の収容所であり、

民族虐殺やホロコーストの象徴となっている。

囚人たちは同収容所で劣悪な条件下での生活を強制され、過酷な労働、飢え、病気に加え、様々な種類の懲罰や拷問、人体実験等によって命を奪われた。ガス室での有害物質（チクロンＢ）による大量虐殺が始まったのは、1942 年のことである。同収容所で殺害された正確な死者数は判明していないが、少なくとも 130 万人が収容され、うち 110 万人が亡くなったとされており、死者の 90%をユダヤ人が占めていたとされている。

・視察概要

博物館公式ガイドの中谷剛氏の案内のもと、アウシュビッツ・ビルケナウ博物館の、アウシュビッツ第一収容所跡地及びアウシュビッツ第二収容所・ビルケナウ跡地を視察するとともに、当時の状況について説明を受けた。

なお、視察の際、収容所の犠牲者を追悼し献花を行った。

② 無名戦士の墓への献花

・期　日　令和７年９月１日

・日本側　遠藤　　敬団長（維新）

　　篠原　　豪議員（立憲）

・視察先概要

　無名戦士の墓は、ポーランド独立（1918 年）以降の戦争で殉職した兵士が眠る場所として、1925 年に宮殿内に作られた。第二次世界大戦で破壊されたが、戦後、一部を残す形で復元された。墓標には「祖国のために死んだポーランド人兵士、ここに眠る」と記されている。

　現在は、政府の公式行事や軍の記念式典等が行われており、祖国に命を捧げた全ての兵士への敬意の象徴として扱われている。

・視察概要

　ポーランドに命を捧げた全ての兵士に敬意を表すとともに、献花を行った。

③ ポーランド国防省との意見交換

・期　日　令和７年９月１日

・対応者　ポーランド国防省レヒ・ドラブ軍外務局局長

・日本側　遠藤　　敬団長（維新）

　　篠原　　豪議員（立憲）

・視察概要

　冒頭、遠藤団長から、挨拶と議員団の紹介を行うとともに、８月 28 日に発生した戦闘機の墜落事故についてお悔やみの発言を行った。その後ポーランド国防省のレヒ・ドラブ軍外務局局長から挨拶を受け、ポーランドの安全保障政策の現状などについて説明を聴取し、意見交換を行った。

　遠藤団長から、近年、日本とポーランドの防衛協力、人的交流が着実に拡大していることを評価する旨、ポーランド国内のウクライナ支援拠

点を通じて自衛隊からウクライナに提供した支援物資の引き渡しが行われていることに感謝する旨、米国のトランプ大統領の停戦に向けた動きに対するポーランドの見解などについて発言・質問があった。

対応者から、両国間の防衛協力の更なる拡大、特にサイバーセキュリティ分野や宇宙分野での協力を目指したい旨、ロシアのウクライナ侵略はポーランドの安全保障政策にとって非常に重要な問題であり NATO や EU 等とともに積極的にウクライナ支援に関与している旨、ポーランドはロシアなどから日々サイバー攻撃を受けているが、日本も様々なサイバー攻撃を受けていると認識しているので互いに協力していきたい旨、ポーランドと米国の関係は良好だが民主主義という同じ価値観を共有する多くの国々が協力しつつ、様々な脅威・課題に対抗していくことが重要である旨の発言があった。

篠原議員から、ポーランドがロシアなどから受けているサイバー攻撃の具体的内容とアクティブサイバーディフェンスなどを含めた対処状況、国際秩序を守るために積極的にウクライナを支援するポーランドの姿勢に敬意を表する旨などの発言・質問があった。

対応者から、ポーランドは全ての国家機関に加え鉄道や銀行などの民間インフラもサイバー攻撃の危機に晒されている旨、サイバー攻撃への対処としては関係機関同士の意見交換や代替設備の準備、友好国間での情報共有・対処協力が重要である旨、ポーランドがウクライナを支援するのはポーランド人が侵略・戦争の本質を非常によく理解していることが背景にある旨などの発言があった。

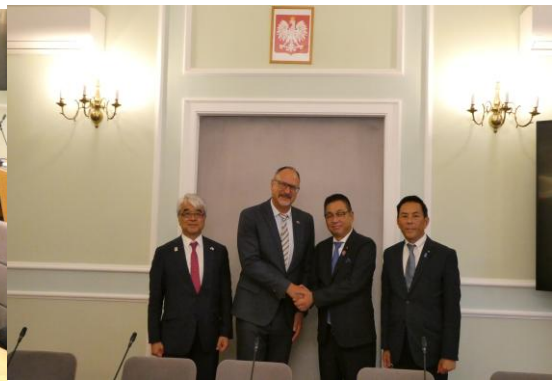
④ ポーランド下院国防委員会副委員長との意見交換

・期　日　令和７年９月１日

・対応者　ポーランド下院国防委員会アンジェイ・シェウィンスキ副委員長

・日本側　遠藤　　敬団長（維新）

　　篠原　　豪議員（立憲）



・視察概要

冒頭、遠藤団長から、挨拶と議員団の紹介を行うとともに、８月 28 日に発生した戦闘機の墜落事故についてお悔やみの発言を行った。その後ポーランド下院国防委員会のアンジェイ・シェウィンスキ副委員長から挨拶を受けた後、ロシアによるウクライナ侵略など世界が直面する厳しい安全保障環境などについて発言があり、その後意見交換を行った。

対応者から、10 年前訪日した際に問題となっていた、中国による南シナ海の人工島建設、北方領土をめぐるロシアとの問題など日本を取り巻く安全保障環境について変化はあったかなどの発言・質問があった。

遠藤団長から、対ロシア政策として北方領土問題については一時期、二島先行返還論などで協議を進めていたようだが実現はせず、日本の安全保障環境は結果として 10 年前より悪化している旨の発言があった。

篠原議員から、北方領土は日本固有の領土である旨、国際秩序を守るために積極的にウクライナを支援するポーランドの姿勢に敬意を表する旨、日本とポーランドは同じ価値観を持つ仲間であり防衛分野、サイバーセキュリティ分野などで協力していくことが必要である旨などの

発言があった。

対応者から、ポーランドは歴史的にもロシアと頻繁に交戦している関係で対 GDP 比で NATO 内最大と言われる防衛費の負担についても国民からの理解を得ている旨、対ロシア政策の一環として防衛分野で日本とポーランドは協力していくことができる旨、安全保障を担当する議員同士での意見交換は重要である旨、自衛隊の国軍化や海外を含めた活動範囲の拡大を目的とした憲法改正の状況などについて発言・質問があった。

遠藤団長から、自衛隊に対する考え方は各政党内で様々であることから憲法改正を行える状況にない旨、安全保障分野を含めほかの分野でも日本とポーランドの議員外交を活発化させていきたい旨の発言があった。

篠原議員から、過去にあった自衛隊は違憲であるといった議論は無くなり国民も自衛隊の存在を認めている旨、法律で運用を変えていくことで日本は関係各国と防衛協力を拡大している旨の発言があった。

（２） 英国

① 英国下院国防委員会委員長との意見交換

・期　日　令和７年９月２日

・対応者　英国下院国防委員会タン・デシ―委員長
英国下院国防委員会ミシェル・スクロガム委員
英国下院国防委員会リンカーン・ジョップ委員
英国下院国防委員会イアン・ルーム委員

・日本側　遠藤　　敬団長（維新）
篠原　　豪議員（立憲）

・視察概要

冒頭、遠藤団長とタン・デシ―委員長から各々挨拶を行った後、出席者の自己紹介が行われた。その後、議員間交流の重要性を確認した後、意見交換を行った。

遠藤団長から、次期戦闘機共同開発である GCAP や西太平洋上での共同訓練、訓練後の英空母の日本寄港など、日本と英国の防衛協力が飛躍

的に深化している旨の発言があった。

篠原議員から、GCAP については開発後の運用も含め両国間のパートナーシップが重要であり議員間でも協力を進めていきたい旨、日英間の防衛協力を更に促進させていきたい旨、英空母を日本に寄港させインド太平洋地域を重視する姿勢とプレゼンスを示したことに感謝する旨の発言があった。

対応者から、日本のウクライナ支援に感謝する旨、ウクライナ問題に対する米国の姿勢、GCAP の重要性及びその進捗状況に関する日本側の懸念点の有無、米英豪の安全保障パートナーシップ（以下「AUKUS」という。）の枠組みを拡大することへの日本側の見解、中国・インド・ロシアの関係強化が日本とインド太平洋地域に与える影響などについて発言・質問があった。

篠原議員から、アジア太平洋地域の安全保障について日米はハード・ソフト両面で協力して対応しており我々議会側も法改正などで協力している旨、スターマー首相がウクライナに英国軍の部隊を派遣する用意があることを表明したことに敬意を表するとともに英国のこの姿勢が米国の行動に影響を与える旨、無人機開発の分野で AUKUS から日本側に協力の打診が来ていると聞いているので今後国会で議論していきたい旨、中国・インド・ロシアの関係強化に対しては米国の動きを見つつ自由貿易を守っていくことが大事である旨の発言があった。

② BAE システムズ社ウォートン工場視察

・期　日　令和７年９月３日

・対応者　アンディ・レイサム アジア太平洋地域市場開発部長
デイヴ・ホームズ FalconWorks マネージング・ディレクター
ジョニー・モートン FCAS ポートフォリア・ディレクター
ロブ・ピア 日本カントリーディレクター　他

・日本側　遠藤　　敬団長（維新）
篠原　　豪議員（立憲）

・視察先概要

BAE システムズ社は英国を拠点とする国防・情報セキュリティ・航空宇宙関連企業である。航空機や艦船、潜水艦、戦闘車両、電子システムなど幅広い軍用機器を製造し、さらにサイバーおよびネットワークのセキュリティ分野でもソリューションを提供している。また、イタリアのレオナルド社、日本の日本航空機産業振興株式会社（JAIEC）と共に GCAP にも参画している。視察先のウォートン工場は航空機製造拠点の一つで、

イングランド北西部のウォートンに所在している。「未来の工場（Factory of the Future)」と称されており、IoTやロボット技術を活用した最新設備を備え、英国を代表する戦闘機製造拠点の１つとなっている。

・視察概要

BAE システムズ社のウォートン工場を訪問し、同工場内を視察するとともに、対応者から同社の概要、GCAP の進捗状況などについて説明を受けた。

視察時、遠藤団長から、GCAP については、国民に日本の安全保障環境をきちんと説明した上で理解をしてもらうことが重要である旨の発言があった。

また篠原議員から、GCAP に関連し、開発後の運用段階を念頭に日本が核心的な技術について主導権を確保していくことの重要性、他の同盟国の同世代戦闘機との連携・統合の在り方、連携・統合の際に危惧される技術流出への対策を講じる必要性などについて発言があった。

対応者からは、GCAP について、日本、英国及びイタリアの３か国の長所を取り入れていきたい旨、他の同盟国の同世代戦闘機との連携・統合の必要性とその際の注意点などについて発言があった。

③ 英国国防省閣外大臣との意見交換

・期　日　令和７年９月４日
・対応者　英国国防省バーノン・コーカー閣外大臣
・日本側　遠藤　　敬団長（維新）
　　篠原　　豪議員（立憲）
・視察概要

冒頭、遠藤団長とバーノン・コーカー閣外大臣から各々挨拶を行った後、遠藤団長から議員団の紹介を行い、意見交換を行った。

対応者から、英国はインド太平洋地域を重視しており同地域の法の支配の実現に向け日本と協力していきたい旨、GCAP における日本の貢献に感謝するとともにこれは日英両国にとって非常に有意義な取組である旨、防衛産業についても日英間の連携を深化していきたい旨、日本のウクライナ支援に対して感謝している旨の発言があった。

遠藤団長から、安全保障分野も含め様々な分野で政府間のみならず議員間の交流を増やして連携を深めていきたい旨の発言があった。

篠原議員から、英空母を日本に寄港させインド太平洋地域を重視する姿勢とプレゼンスを示したことに感謝する旨、両国間の防衛協力のレベルが着実に上がってきている旨、スターマー首相がウクライナに英国軍の部隊を派遣する用意があることを表明したことに敬意を表するとともにこれにより米国も英国を無視できなくなった旨の発言があった。

対応者から、議員間交流の拡大には賛成である旨、欧州とアジアの安全保障問題は切り離すことができない旨の発言があった。

篠原議員から、ロシアのウクライナ侵略以降の英国の対中姿勢について質問があった。

対応者からは、難しい舵取りになるが柔軟に対応していく旨、インド太平洋地域の安定に向けて今後とも日本とは連携を強化し協力を密にしていきたい旨の発言があった。

④ GIGO 本部訪問及び意見交換

・期　日　令和７年９月４日

・対応者　岡真臣首席行政官（GIGO）

　　マルコ・ゾフ CEO（エッジウイング）　他

・日本側　遠藤　　敬団長（維新）

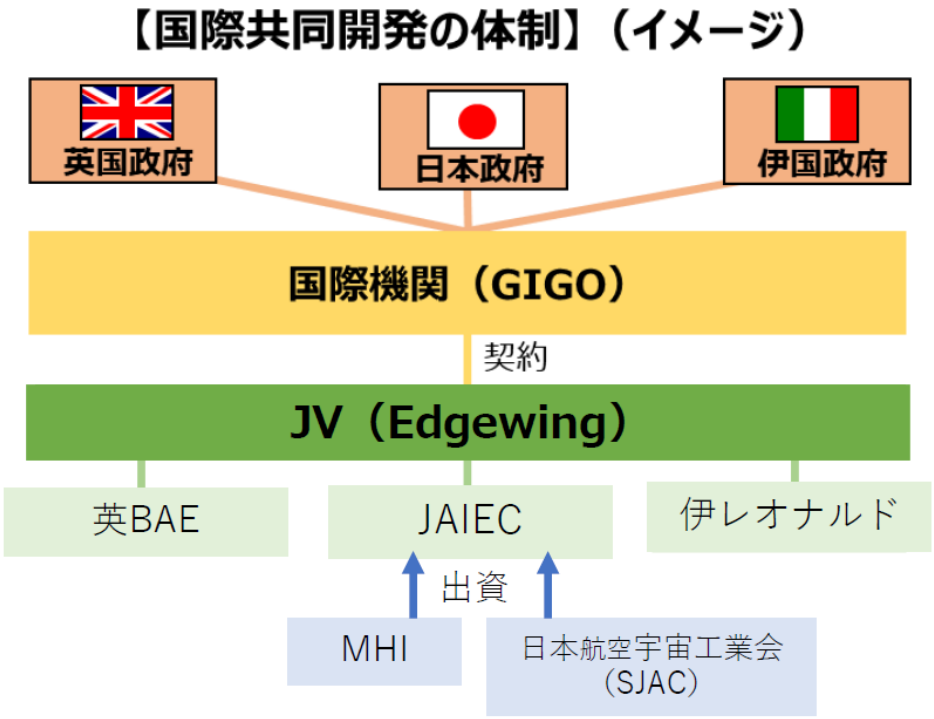
　　篠原　　豪議員（立憲）

・視察先概要

GIGO は GCAP を実施するために設置された政府間機関である。日本、英国及びイタリアの３か国は GCAP の実施に当たり、政府間の効率的な協業体制を確立するため、GCAP を一元的に管理・運営する国際機関を設立することで一致し、2023 年 12 月に GCAP 政府間機関設立条約に署名した。

その後、2024 年 12 月に同条約が発効し、GIGO が設立された。GIGO は日本、英国及びイタリアの３か国から派遣された職員で構成されており、

現在、GIGO のトップである首席行政官には、元防衛審議官の岡真臣氏が初代として就任している。当初、GIGO はレディング市内の英国防省施設にて業務を行っていたが、2025 年５月から同市内の現施設に移転した。また、同年６月には、GIGO の下で共同事業を行う合弁企業「エッジウイング」も現施設内に設立された。



（出所）防衛省

・視察概要

遠藤団長と対応者から各々挨拶を行った後、遠藤団長から議員団の紹介が行われた。その後、対応者から組織の運営状況、GCAP の進捗状況などについて説明を受けた後、意見交換を行った。

遠藤団長から、GCAP を進めていくには日本、英国、イタリアの３か国の利害を調整・解決していく必要があり苦労が多いと思うが、重要な事業であるため是非成果を出してほしい旨の発言があった。

篠原議員から、GCAP は今後長期にわたって展開される事業であるため政府、企業共に頑張ってほしい旨、防衛政策については基本的に与野党

で大きな差異はないので何かあれば相談してほしい旨の発言があった。

　対応者からは、日本、英国、イタリアの３か国が共に利益を得られるよう取り組んでいく旨の発言があった。